

ちいさなともだち、たくやくんへ

すっかりさむくなってきたね、げんきにしているかな。

サンタクロース村もすっかりひえて、そとではゆきがたくさんつもっておる。いえのちかくの池も、すっかりこおって、スケートができるくらいじゃ。小人たちは、たのしそうにすべってあそんでおるよ。

わしはだんろのちかくで、ゆっくりするほうがすきだがね。
いま、ちょうどキミへのプレゼントをよういしていたところじゃ。

キミのいえをちぎでしらべながら、このてがみをかいておる。プレゼントは、わしだけじゃなく、トナカイや小人やサンタクロース村のひとたちがキミのことをおもいながら、よういしたんじゃよ。

あとはこれをぶじにとどけるだけじゃな。
おお、そうじゃ。キミにカギをあずけよう。

このカギをクリスマスイブにドアノブにかざっておくれ。

このカギにはまほうをかけておるんじゃ。
プレゼントをとどけるときの、めじるしになるからね。

これはわしときみのヒミツじゃよ。
クリスマスイブまで、このカギをたいせつにもっていておくれ。

どうしてわしがキミにプレゼントをとどけておるかって？
こたえはかんたん。わしはキミのえがおが、だいすきじゃ。

キミのかぞくもきっとキミがわらうとよろこぶじゃろう。
キミのえがおはたくさんの力をもっておるぞ。

わしもたのしみにしておるから、よいこにしてまわいておくれ。
たのしいクリスマスになるよう、いのっておるぞ！

サンタクロースより

